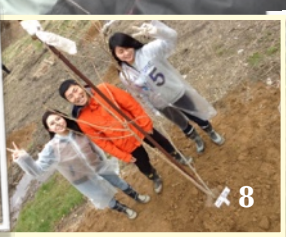


春風到来



4 / 17 桜の植樹とカタクリ見学ツアー



「山は宝」

山に入ると大久保金一さんの語りが始まる。金一さんの表情が実に生き生きとしてくる瞬間だ（上の写真）。山は食を満たし人生を満たしてくれる宝だという。山に入ると、金一さんは決まって言う。このかけがえのない宝を奪い台無しにしたのが原発事故だと。写真1～3の20種類もの水仙達は買ってきたものは1本も無い。金一さんが野の花との対話を通して発見し株分けして増やしてきた。水仙は金一さんの思いを知る証人たちだ。

【カット写真（左上から時計回り）】1. 水仙（1）。2. 水仙（2）。3. 水仙（3）。4. カタクリ見学ツアー（1）群生地で説明。5. カタクリ見学ツアー（2）丸木橋を渡って下山。（以下は桜の植樹）6. 東大溝口研究室。7. 茨城大西脇研究室。8. 佐賀大徳本研究室。9. 東大田野井研究室・二瓶研究室。10. 東大農学部「御用達」居酒屋くちどりマスター。

【背景写真】植樹とツアーを無事に終えて集合写真撮影のために集う仲間たち（その一部）。

2016年4月17日午前9時、再生の会第一陣30名が飯館村小宮地区にある大久保金一農園「マキバノハナゾノ」に到着した。天気予報は終日の雨。前日から霊山（りょうぜん）センターに宿泊していた面々は折からの驟雨の中、朝食もそこそこに植樹に駆けつけた。しかし、天は再生の会に味方してくれた。マキバノハナゾノは曇り空でときどき小雨、時に青空も覗くことができる絶

好の作業日和りになった。

金一さんはこの日、新種の「御殿場」も投入して合計70本の桜の植樹を計画した。東大、茨城大、佐賀大の学生のみなさんを先頭にして金一さんの手解きを受けながら次々と植樹を進めた。昼近くまでに第二陣の26名が到着して、午後一時までには予定の植樹をすべて終えることができた。お昼は佐野シェフ謹製の手作りオニギリ弁当に皆舌鼓を打った。

午後一時半カタクリ見学ツアーに出発、山に入る。残念ながらカタクリは最盛期を過ぎていたが、可憐な姿で我々の目を楽しませてくれるカタクリが地中で人知れずその生命の営みを数年にわたって続けている様子を金一さんが丁寧に語ってくれた。下山した後、金一さん自慢の水仙畑の前で集合写真撮影が行われて、午後3時に全日程を無事に終えることができた。

（撮影・文責：若林一平）